

スズメのイクジイ記 (2013年 5月)

江本弘次郎

春になると庭の桜の木に掛けた巣箱でスズメが子育てを始める。今年も八重桜が咲き始めたころに巣作りを終え、5月初めにヒナが誕生した。

5月14日

いつもなら、朝早くから親鳥がヒナに餌を運んでくるが、今朝は親鳥の姿がなく、チュンチュンとさえずるヒナの鳴く声だけが聞こえる。ひょっとすると親鳥がネコやカラスに襲われたか、事故に遭ったか？ それとも子育てを放棄したのか？

昼まで親鳥を待ったが、帰って来ない。巣箱の中を覗くと、四羽のヒナがいた。



このままではヒナの運命は飢え死にしかない。ヤフーで「スズメの子育て方法」を検索し、いろいろな情報を得た。インターネットは本当に便利である。よし！イクジイの出版だ。

孫の虫かごと、段ボールで飼育箱をつくり、巣箱からヒナ移す。

パン、ごはん、ゆで卵に蜂蜜をブレンドした特餌を用意し、割り箸で口先に持っていくと、はじめは警戒していたが、次第についばみはじめる。ペットショップで買ってきたミールワームもパクパク食べるようになった。

満腹になると口先に餌を持って行っても反応しないが、2時間ほど経つと空腹を訴え、チュンチュンとまた餌をねだる。

5月17日

今日は東京 49 陽会のゴルフコンペの日である。妻も出かけるという。小雀たちのお世話のため飼育箱をゴルフ場に運ぶ。給餌を済ませてティオフ。1番ホールのティショットは無念のOB。ハーフを終え、昼食、餌やりと忙しい。午後也大叩きが続く。ホールアウト後に再給餌。100を超えるスコアは、すずめのせいだと自己弁護。

5月21日

縁側に飼育箱を置き、2時間ごとに餌を与えている。何気なく庭に出ると、体長1.2mほどのヘビがによろよろしている。小雀たちの鳴声、匂い、それとも体温を感知し、獲物がいると出てきたものと思われる。2年前のヘビ事件を思い出す。



今回、庭に現れたヘビ

2年前の6月のある日、子育てに励む親スズメがいつもと違う濁声で「じゅじゅ、じゅじゅ」と海女ちゃんのように騒いでいた。何事かと巣箱をみると、体長1m弱のヘビが中に入ろうとしていた。数分後、巣箱から出てきたヘビの腹は膨らんでいた。1羽か2羽のヒナを丸飲みしたようだ。ヘビの動きは緩慢だが、満足げに巣箱を後にし、悠然と隣家のやぶの中へと去って行った。巣箱の中を確認すると2羽のヒナが残されており、その後彼らは親雀の世話で無事巣立ちを迎えた。



腹が膨らんだヘビ

今回は飼育箱に蓋をしていたので、ヘビは手も足も？出せず、ヒナは無事であった。

5月24日

ヒナのお世話も10日目となり、小雀たちは飼育箱の中を飛び回るようになった。近くの公園にはすでに巣立った小雀がたくさんいる。我が小雀たちも巣立ちの時を迎え、友達が多くいる公園に放鳥することにした。しかし、この公園の楠の木の上でカラスも子育てをしているようなので、小雀たちが襲われるかもしれない。場所を変え、葦が多く生えている休耕田に放すことにした。飼育箱の蓋を開けると元気な3羽はすぐ飛び立った。残る一羽は辺りを窺う様子を見せたが、続いて葦の茂みへと姿を消した。



葦原に残った餌を置き、小雀たちの無事を祈る。いつの日か我が家の庭に、その成長した姿を見せてくれることを願いながら。。。。